

平成30年度 学 校 評 価 報 告

草加市立稲荷小学校
(平成31年2月12日作成)

1 学校教育目標 自ら学び (自分の考えを持ち、よりよく判断し、行動できる子) 心豊かに (互いに助け合い、高め合える子) たくましく (心と身体が健康で、笑顔と希望にあふれる子)	
2 重点目標・努力目標 ・学び合い、関わり合い、自らの学びを深める児童の育成 ・一人ひとりを生かす生徒指導の充実 ・健康・体力づくりの充実 ・落ち着いた教育環境の整備充実 ・地域に根ざす教育の推進	3 前年度の成果と課題 成果 ○国語科の説明文における「論理的な読み」について全担任が指導力を向上させることができた。 課題 ●国語科以外の教科についても授業ユニバーサルデザインについての研修を行い、さらなる授業改善と児童の学力向上を図る。

4 評価表 ※評価基準 [A: 十分達成している B: おおむね達成している C: やや不十分である D: 不十分である]				
領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
I 学校運営に関するもの	①組織運営	・学校経営目標、方針 ・校務分掌組織 ・適所への適材配置 ・職員会議等の運営 ・予算の執行・決算、監査等	B	○きめ細やかな見届けと児童理解を心がけ、組織を生かして一人ひとりを大切にしたい教育の具現化に努めた。 ●各種会議の議案の精選や運営の効率化に努め、会議時間の短縮を図る。
	②研究・研修	・研究組織、計画、実施 ・校内研修の推進 ・授業改善への取組 ・校外研修会への参加 ・人材育成	A	○小中相互に授業参観を行ったことで、学習の系統を意識した授業展開を行うことができた。 ○授業ユニバーサルデザインの視点が国語以外の教科でも活かされた。
	③保健管理・安全管理	・保健計画、安全計画 ・環境衛生の管理 ・健康観察、安全点検 ・緊急事態発生時の対応 ・危機管理マニュアルの作成・活用	A	○手洗いうがいを励行するとともに、保健だより等で家庭に健康的な生活習慣の確立を呼びかけた。 ○火災・地震・竜巻の避難訓練だけでなく、ショートの避難訓練も多く行ったことで、児童一人一人が素早い避難行動をとれるようになった。
	④情報管理・施設設備管理	・個人情報の管理、保護 ・施設設備の管理と有効利用	A	○安全点検の集約の仕方を見直し、円滑に危険箇所・修繕箇所を伝え、素早く修繕することができた。
	⑤地域との連携開かれた学校	・学校情報の発信 ・学校公開の実施 ・学校評議員制度の活用 ・地域、校種間連携 ・PTA活動の活性化	B	○幼保小中一貫教育に関わる研究やいなり祭りを通して、家庭・地域との連携がさらに強化され、教育活動への理解、協力の意識が高まった。 ●学校公開の日程・内容を見直すことで、参観者を増やし、より家庭・地域と連携した教育の推進を行う。
	⑥幼保小中を一貫した教育	・目指す子ども像の実現に向けた取組 ・教育課程の編成 ・一貫教育推進のための組織づくり	A	○多くの交流活動を行うことを通して、園児・児童の入学への期待感を高め、不安を解消することができた。 ○合同研修会や部長会議を通して、幼保小中の連携の大切さについて教職員の意識が高まった。

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
II 教育活動に関するもの	①教育目標・教育計画	<ul style="list-style-type: none"> 教育課程の編成、実施 教育計画の作成 教育活動の評価 目標、方針の周知 授業時数の配当、確保 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○日課表の改善により、対外行事に向けた練習時間を確保することができた。 ●新学習指導要領全面実施に向けた教育課程の見直しと行事の精選を行う。
	②教科指導	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 わかる授業づくり 指導方法の工夫と改善 評価、評定の工夫 外部人材の活用 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○授業ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業展開を工夫した。 ●授業ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業をさらに多くの教科へ広げていく。
	③道徳教育	<ul style="list-style-type: none"> 全体計画の作成 各教科との関連 道徳的実践力の育成 家庭、地域社会との連携 いのちの教育の推進 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○学校公開において、全学級、道徳の授業を公開することができた。 ●家庭への啓発、地域社会との連携をより深めていく。
	④外国語活動	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 指導方法の工夫と改善 評価、評定の工夫 各教科、道徳教育との関連 中学校との連携 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○年度当初に中学年の外国語活動の授業について研修を行ったことで、全職員が授業のイメージをもてた。 ●ALTとの打ち合わせ時間を密に行い、授業での担任とALTの役割分担を明確にしていく必要がある。
	⑤特別活動	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 学級活動、学級経営 学校行事 児童会活動 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○児童が主体的に活動する場を設定することで、望ましい人間関係の形成が図られた。 ●児童会活動において特別活動のねらいを達成するための指導の在り方についての検討が必要である。
	⑥「総合的な学習の時間」の指導	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 指導内容の充実 指導方法の工夫と改善 評価の工夫 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○昨年度に比べ、時数が減った中でも、計画的に活動を進められた。 ●指導内容の精選を行い、地域の人材をより活用できるようにする。
	⑦生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> 組織的な生徒指導 問題行動への対処 教育相談、児童理解 いじめ防止対策 保護者、地域、諸機関との連携 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○情報交換が密に行われ、問題行動への対処も迅速かつ組織的に対応することができた。
	⑧キャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> 計画の立案 指導内容の充実 中学校との連携 啓発的経験の充実 家庭、地域との連携強化 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○地域の施設や職場との連携を深めながら、体験的な活動を充実させることができた。 ●中学校との連携をさらに強め、体系的なキャリア教育を推進する。
	⑨特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> 個別の指導計画、支援計画 指導方法の工夫と改善 通常学級との交流 諸機関との連携 校内支援体制の整備 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○全教職員でコーディネータから支援を必要とする児童への対応の仕方を学ぶことができた。
	⑩学校図書館教育	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画、支援計画の作成 図書館補助員の活用 諸機関との連携 図書館の整備 図書館利用の工夫 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○司書教諭と学校司書や読み聞かせボランティアとの連携により、掲示の工夫やイベント等による啓発活動が行われ、貸し出し冊数の伸びが見られた。 ●学校図書館を利活用した授業をさらに増やす。
	⑪情報教育	<ul style="list-style-type: none"> 教育計画の作成 校内研修 ICT機器の積極的な活用 情報モラル教育の推進 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○ICTサポーターとの連携により、ICTを活用した授業を効果的に行うことができた。 ●携帯電話の使い方を含め、児童の情報モラルの意識を向上させる必要がある。
	⑫人権教育	<ul style="list-style-type: none"> 全体計画の策定 各教科との関連 人権感覚の育成 校内研修の充実 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○研修を計画的に行い、教職員の人権に対する意識を高められた。 ●各教科との関連をより意識した人権教育を推進する。

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
Ⅲ 特色ある学校づくり	①基礎学力の定着	・国語科の読みの力の育成	B	○国語科の説明文教材において、論理的な読みの力を育成することができた。 ●国語科の文学教材での論理的な読みの力を向上させる。
	②日本語指導	・日本語指導の充実	A	○担任と日本語指導教員とが連携し、日本語の指導を必要とする児童に対し、生活面を含めてきめ細やかな指導を行うことができた。 ○日本語の指導を必要とする児童に対し、個別の指導計画を作成し、計画的に指導することができた。
	③教育環境の整備	・心潤う教育環境の充実	A	○花と緑の整備、掲示物が工夫され、教育環境が着実に改善されている。 ○老朽化した箇所の修繕を計画的に実施することができた。

5 総合評価 (学校関係者評価を含む)

- ・草加市教育委員会委嘱の幼保小中を一貫した教育に関わる発表に向け、いなり幼稚園・ひかり幼稚舎・松江中学校と連携し、研究を進めることができた。松江中学校と相互に研究授業を行うことで、授業力を向上させることができた。また、様々な交流行事を通して、児童の自己肯定感を高められた。
- ・避難所運営市民防災訓練には、地域住民、保護者、本校教職員合わせて400名以上が参加し、避難所運営の訓練を実施することができた。

6 次年度の改善策

- ・松江中学校区の幼保小中の連携を図りながら、今年度の取組を見直し・精選し、めざす子ども像の実現に向け研究を進める。
- ・幼児期の教育の成果を各教科等でさらに生かせるようにスタートカリキュラムの見直しを行う。
- ・授業ユニバーサルデザインの視点を様々な教科に活用し、「わかる」「できる」授業展開を全職員が行うことで、児童の学力向上を図る。
- ・新学習指導要領全面実施に向け、「特別の教科道徳」や外国語活動において、児童の学習意欲を高めるための授業改善を図る。
- ・児童の生命と安全の確保の観点から、安全点検の方法を見直すとともに、学習環境や施設の老朽化について、草加市教育委員会の協力を得て、引き続き整備・改修を進めていく。